

【概要版】

沖縄空手振興ビジョン

(2018年度～2037年度)

2018年3月

沖縄県

1 沖縄空手振興ビジョンについて

- 沖縄を発祥の地とする空手は、厳しい鍛錬を通して身体を鍛えるとともに、心を磨き礼節を重んじる「平和の武」として国内外に広く普及し、現在では、空手愛好家は世界中で1億3千万人いるといわれています。
- 沖縄の空手家の努力によって、明治から大正にかけて国内に普及し、その後、多くの空手家の活躍によって世界中に広がった空手は、2020年東京オリンピックの正式種目として採用されました。
- 今後、オリンピックの開催に向けて、ますます空手への注目度が高まるとともに、空手愛好家のさらなる増大が予想されるなか、県、空手関係団体、経済界等の様々な分野が一体となって、沖縄を発祥の地とする空手の保存・継承・発展を図る取り組みを戦略的に行うためには、めざすべき将来像となる沖縄空手振興ビジョンを策定し共有する必要があります。
- 県、空手関係団体、経済界等の様々な分野が共通認識として、空手の価値と現状を確認し、協働のもと伝統文化である沖縄空手のめざすべき将来像を描くことで、戦略的かつ計画的に空手の保存・継承・発展を図っていきます。

2 ビジョンの期間

本ビジョンの期間は、現在の30代、40代の若い空手家が中心となって、実現に向けて取り組んでいくための期間として、2018年度から2037年度までの20年間とします。

3 沖縄空手振興ビジョンの体系



4 基本理念

本ビジョンの策定にあたり、沖縄を発祥の地とする空手の将来を見据えて守るべきもの、新たに取り組むべきものなど、今後、必要な施策を推進する際の根幹となる基本理念として、【保存・継承】【普及・啓発】【振興・発展】の3つのキーワードを設定します。

【保存・継承】

- 先人により創造され生まれ受け継がれてきた精緻な技と平和の武としての精神性を保存する。
- 後継者を育成し空手の型に秘められた精緻な技と平和を希求する精神性を継承する。

【普及・啓発】

- 県民が世界に誇れる伝統文化として沖縄を発祥の地とする空手の価値を認識している。
- 沖縄空手のブランド化に向けて伝統空手を確実に継承しつつ競技空手についても推進し子ども達に夢を描かせ、世界に向けて「空手発祥の地・沖縄」を普及・啓発する。

【振興・発展】

- 空手家が経済的に自立し世界中の人々から尊敬されるとともに、沖縄は空手に関する夢が叶い殆どの課題が解決される「空手の聖地」となっている。
- 空手を目的とした交流人口の拡大が、新エンジンとなって沖縄経済の成長に資するとともに、自我作古の気概を持って空手界及び産業間が連携し振興・発展に取り組む。

5 めざすべき3つの将来像

基本理念である3つのキーワードのもとに、沖縄の伝統文化である空手の価値を県民のみならず世界の人々が認め、これまで以上に国内外に広く普及し、「空手発祥の地・沖縄」を認識するとともに、空手を目的とした沖縄への交流人口の拡大により、各種産業への経済波及効果が増大し、空手が沖縄経済を成長させる新エンジンとなっている。この状態をあらわす将来像として次の3つを設定します。

【保存・継承】

空手の型に秘められた精緻な技と平和を希求し礼節を重んじる精神性が正しく次世代へ受け継がれている。

【普及・啓発】

空手を取り巻く環境変化を的確に捉えた施策の推進により世界の空手家が「空手発祥の地・沖縄」を認識している。

【振興・発展】

空手家が豊かな人生を歩む「空手の聖地・沖縄」が確立されて空手による産業振興が図られている。

6 めざすべき将来像と推進戦略

沖縄が世界に誇る伝統文化である空手を今後とも保存・継承・発展させるためには、今日まで受け継がれ未来に向け伝統として守るべきもの、時代の変化に応じて適切に対応すべきもの、「空手発祥の地・沖縄」として新しく取り組むべきものを明確化し、沖縄空手の「あるべき姿」「ありたい姿」として、めざすべき将来像を描き、その実現に向けた推進戦略を関係機関が一体となって構築します。

【めざすべき将来像に向けたイメージ図】

